

しろちどり

第 59 号

特集：野鳥に関する書籍



2008 年 11 月 日本野鳥の会 三重県支部

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

特集 野鳥に関する書籍

編集部 近藤義孝 濱中勝彦

バーダー2008年7月号の特集「保存版！鳥の本カタログ2008」で、多くの本が紹介されている。ここで紹介された本以外にも、興味ある本が何冊かある。

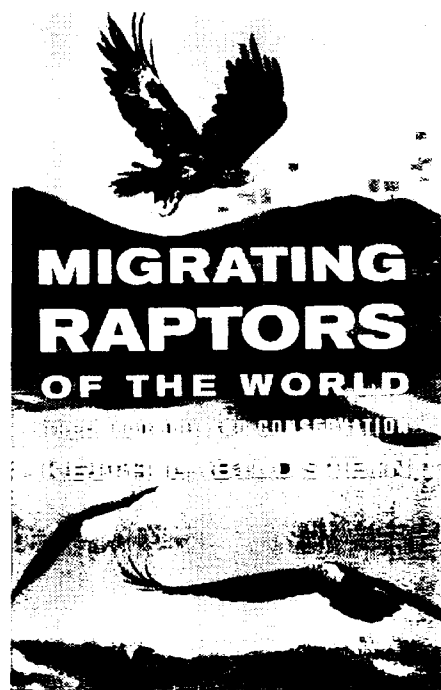
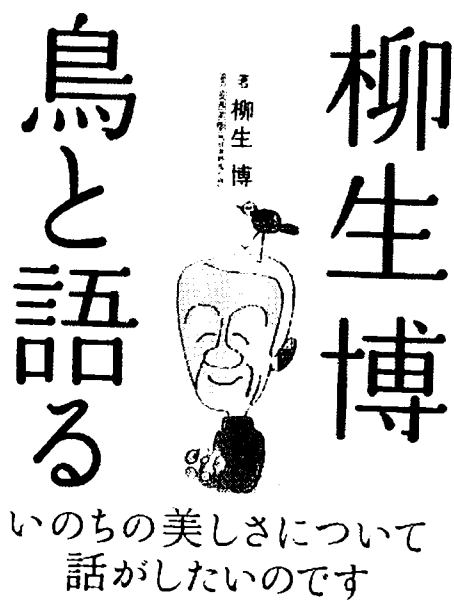
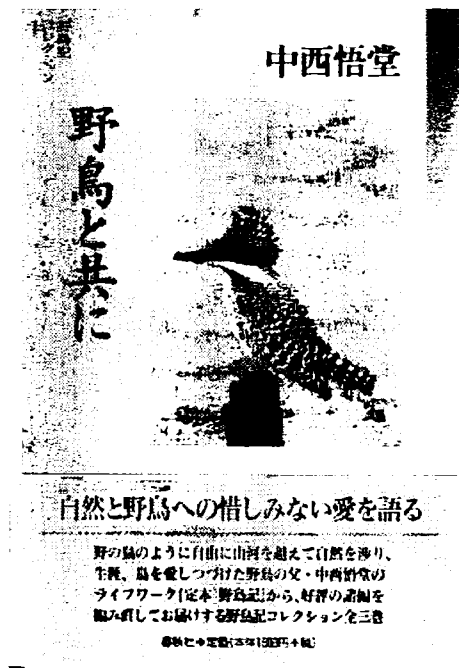
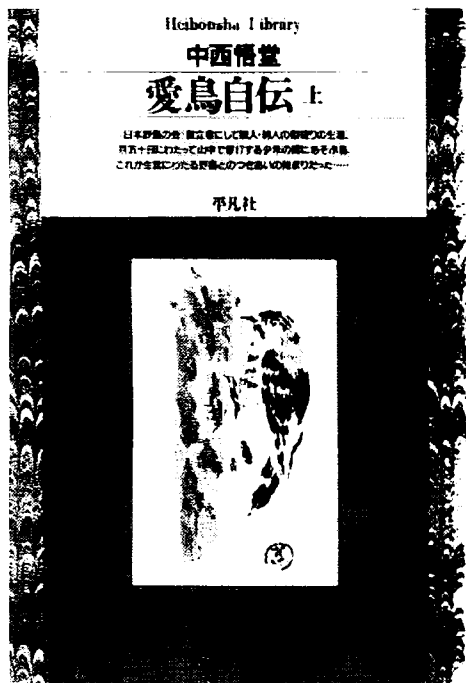
今回の特集は、鳥に関する本の紹介である。すでに、廃刊になった本もあるが、アマゾンなどで検索すると古書として手に入れることができ

ることもある。

記載した定価は購入したときのものであるため、現在は改訂されている可能性がある。

海外の出版物や限定版などの定価は記載しない。

コメントに関しては、的確でないこともあるので、ご容赦願いたい。



日本鳥類学会 創立50周年記念出版 鳥の文化のあゆみ
10年ぶりの訪きつるしゅうせい

書籍名	著者	出版社	定価	ISBN	コメント
愛鳥自伝(上)	中西悟堂	平凡社	1500	4-582-76028-7	禪宗の僧侶でもあった日本野鳥の会初代会長中西悟堂の著作
愛鳥自伝(下)	中西悟堂	平凡社	1500	4-582-76029-5	同上
野鳥記コレクションⅠ 野鳥と共に	中西悟堂	春秋社	1890	4-393-42130-2	悟堂が書いた「定本 野鳥記」を編みなおした本
野鳥記コレクションⅡ 野鳥のすみか	中西悟堂	春秋社	2100	4-393-42131-0	同上
野鳥記コレクションⅢ 鳥を語る	中西悟堂	春秋社	1890	4-393-42132-9	同上
鳥と語る	柳生 博	ペンギン書房	1785	4-901978-65-9	日本野鳥の会現会長のエッセイ集
愛鳥語	黒田長久	世界文化社	1680	4-418-02212-0	日本野鳥の会元会長の自伝的エッセイ
野鳥売買メジロたちの悲劇	遠藤公男	講談社	840	4-06-272163-5	日本の野鳥が海外から輸入された鳥となり、売買される実情を告発
マダガスカル自然紀行 進化の実験室	山岸 哲	中公新書	714	4-12-101010-8	オオハシモズ類など、マダガスカルの自然を紹介
The life of the robin	David Lack	Witherby	*	*	1941年に書かれたヨーロッパコマドリに関する本
ウィルソン 生命の多様性Ⅰ	大貫昌子・牧野俊一 訳	岩波書店	2940	4-00-005568-2	種の多様性がなぜ必要か?その疑問に答えてくれる
ウィルソン 生命の多様性Ⅱ	大貫昌子・牧野俊一 訳	岩波書店	2856	4-00-005569-0	同上
保全生物学	樋口広芳 編	東京大学出版会	3360	4-13-060165-2	保全生態学について学べる鳥類についての記述が多い
野生生物の保護はなぜ必要か	日本弁護士会 公害対策・環境保全委員会編	信山社	2835	4-7972-5068-2	なぜ自然を保護しなくてはならないのか
生態学入門	日本生態学会 編	東京化学同人	2940	4-8079-0598-8	生態学を学ぶための教科書鳥類についての記載も多い
基礎生態学	E.P.オダム 三島次郎 訳	培風館	4830	4-563-07703-8	前著「生態学の基礎」に現代生態学の諸問題を付け加えた著作
里山の生態学 その成り立ちと保全のあり方	広木昭三 編	名古屋大学出版会	3990	4-8158-0421-4	里山についての研究の集大成
里山の環境学	武内和彦 他 編	東京大学出版会	2940	4-13-060301-9	鳥についての研究が多くある
鳥類生態学入門 観察と研究のしかた	山岸 哲 編	築地書館	2625	4-8067-2369-X	基礎編と応用編
日本の生態学 今西錦司とその周辺	大串龍一	東海大学出版会	2625	4-486-01182-1	日本の生態学について書かれた著作
生態学と社会	伊藤嘉昭	東海大学出版会	2625	4-486-01272-0	文系学生のための生態学入門
利己的な遺伝子 増補新装版	リチャード・ドーキンス	紀伊国屋書店	2940	4-314-01003-0	進化についてのベストセラー
Hammers of the world	Robert E Simmons	Oxford University Press	*	0-19-85464-4	チュウヒのことを知りたい場合はこの本
Raptors of the world	James Ferguson-Lees & David Christie	Princeton University Press	*	0-691-12684-4	世界中の猛禽類を取り上げた図鑑
Migrating raptors of the world	Keith L. Bildstein	Cornell University Press	*	0-8014-4179-0	世界中の猛禽類の渡りについて、述べられている
鳥の飛翔	オットー・リリエントール 田中豊助 他 訳	東海大学出版会	3360	4-486-03176	鳥の飛翔の仕組みを詳しく解説リリエントールは有名な飛行家
鳥の渡りを調べてみたら	ポール・ケリンガー 丸 武志 訳	文一総合出版	2940	4-8299-2144-7	鳥の渡りについて、いろいろ説明している
世界の渡り鳥のアトラス	ジョナサン・エルフィック 編 森下麻矢子 訳	ニュートンプレス	2625	4-315-51544-2	世界の渡り鳥のコースを図示してあり、地球儀があるとよりわかりやすい
鳥たちの旅 渡り鳥の衛生追跡	樋口広芳	日本放送出版協会	1218	4-14-091038-0	コハクチョウ・アネハヅル・ハチクマ・サシバなどの移動を人工衛星で追跡
石川の自然 野鳥(限定版)	日本野鳥の会石川県支部	榎本碩文堂	*	*	石川県支部発行の写真集(1990年発行)
鷺と鳩	宮嶋 学	平凡社	3800	*	1981年に出版された鷺と鳩の写真集

表紙の言葉

北川和則（多気町）

先日、車を走らせていると上空をオオタカが、ヒヨドリをつかんで飛んでいくのが目に入り、車を止めて目で追っていくと、約800メートル先の木立の中に入ってゆきました。車を木立の方へ走らせてゆくと、1本の杉の木にそのオオタカがとまっていました。

2・3分ぐらいそうしていたでしょうか？

やがて、奥の方へ消えてゆきました。そのとき、観たオオタカが忘れられずに書きました。

目次

特集：野鳥に関する書籍	1
表紙の言葉	3
三重県で観察されたセイタカシギの繁殖記録	3
野鳥情報	8
会員のページ「野鳥の会」と俳句づくり	9
編集部よりのお詫び	9
2008年度予算書	10
事務局だより	11
探鳥会報告	13
野鳥講座のご案内	16
しろちどり原稿募集	17
北勢地区地区会情報	17
編集後記	17

三重県で観察されたセイタカシギの繁殖記録

安藤 宣朗（四日市市）

1. はじめに

四日市市霞ヶ浦地区北ふ頭の埋立地（工事のため進入禁止区域）でセイタカシギが繁殖した。セイタカシギは、東南アジア、アフリカ、南米、オーストラリアなど熱帯から温帯に幅広く生息し、国内でも各地で見られるが個体数が少なく国の絶滅危惧種〔絶滅危惧ⅠB（EN）〕に指定されている。三重県内では、松阪市、鈴鹿市などの河口付近の湿地や田圃に時々渡来する。今まで県内では、幼鳥の渡来や営巣の情報はあるものの繁殖を確認した記録はない。今回、2組のつがい北ふ頭埋立地で8羽の雛を無事に育て上げた。幸い、その繁殖過程（抱卵・孵化・雛の成長）を継続的に観察する事が出来たのでその概要を報告する。

2. 過去の記録

日本では、1960年頃まではきわめてまれな鳥であったが、1971年に千葉県行徳地区に40羽もの群れが渡来した。また、1975年には愛知県鍋田干拓にて国内で初めての繁殖が確認された。その後、ほとんどの都道府県で渡来が確認されるようになったが個体数は少ない。環境省の調査では、1999年春464羽1999年秋349羽で年々渡来数、

繁殖数ともに増加傾向にあると報告されている。近年の繁殖記録は、葛西臨海公園など東京湾沿岸と愛知県で繁殖例があるものの、その他の地域での報告はなく、今回の記録は、国内でも珍しい記録といえる。

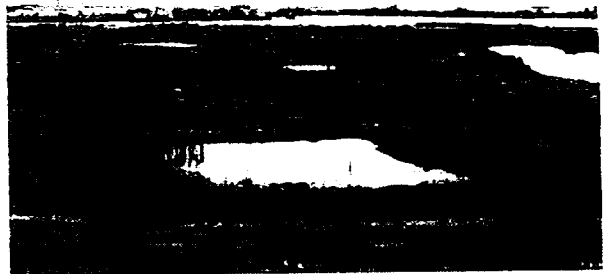


図1 北ふ頭埋立地の景観

3. 繁殖した環境

霞ヶ浦地区北ふ頭の埋立地（北緯 35 度 15 秒、東経 136 度 40 分）は、四日市港の最北端に位置し平成 13 年から造成が開始され平成 18 年には、大型コンテナ船が着岸できるコンテナターミナルが稼働している。しかし造成地の一部約 20ha は、港湾関連施設用地として継続的に造成中で荒地が残っている。浚渫と山土により造成し

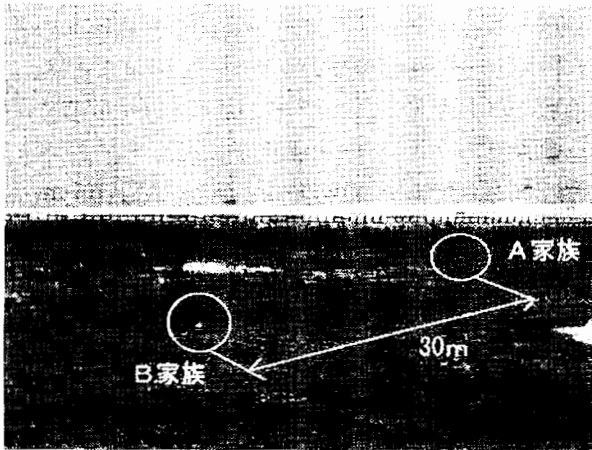


図 2 営巣場所

たこの埋立地（図 1）は、砂礫を含む緑灰色粘土質ため雨水の浸透が少ないことと、地表が不等沈下により凹凸があることから、雨水が溜まり所々に池と湿地が形成されている。埋立地内には、面積 0.7ha 深さ 0.3~0.5m 程度の大きな池が 2 箇所、中間の池（0.3ha 程度）小さな池（0.1ha 程度）が多数点在しており、雨期には、全面積の 30%~40% 程度が池と湿地になる。池の周辺や湿地には、ヨシ類、ガマ類などの抽水植物が群生し、水中には、リュウノヒゲモなどの沈水植物が密生している。埋め立てて間がないために魚類・爬虫類は生息していない。その反面、極小ゲンゴロウなどの甲虫類・ヤゴやアカムシなどが生息しており、鳥たちの食料源となっている。また、天敵となるヘビ・ネコなどの生息がなくカラス類も少ない。更に、野鳥の繁殖期は、工事時期を調整して繁殖地への立入り禁止などの配慮により、人の往来がないため鳥たちにとって安全で絶好の生息地であり繁殖地になっている。この埋立地の北側は、砂浜と干潟を有する高松海岸が広がりシギ、チドリ、カモ、カモメ類およびこの埋立地で繁殖しているコアジサシたちの絶好の餌場を形成している。

4. セイタカシギの発見

2008 年 6 月 6 日武田氏が例年実施しているコアジサシの環境省委託調査のため調査員 4 名が、この埋立地に訪れた際、2 つがいのセイタカシギを発見し縄張り争いと思われる行動を確認した。繁殖する可能性が高いので継続して調査することにした。

5. 営巣場所

2008 年 6 月 11 日広大な埋立地内を双眼鏡片手に、隈なく調べて見ると埋立地のほぼ中央にある面積 900 m² 程度の池に接する小高い植生の少ない荒地で抱卵しているセイタカシギ（以下 B 家族という）を発見、更にこの場所から東へ 30m ほど離れた所で抱卵している別個体（以下 A 家族という）（図 2）を確認した。広大な埋立地なのにこれだけ接近して営巣するのは、集団性があるからと思われるし、小高い所での営巣は水没を防ぐための知恵なのだろう。この営巣場所の周辺には、コアジサシ、シロチドリ、コチドリ、ケリも営巣しており、まさに雑居状態といえる。セイタカシギの巣に最も近い巣は、シロチドリで 8m、コアジサシで 11m であった。個体が接近しても抱卵中は全く相互の干渉はない。

6. 卵

産卵の過程は観察出来なかったが、巣内（図 3）を調べてみると産卵数は共に 4 個でセイタカシギの平均的産卵数であった。卵は、洋梨型で淡黄緑



図 3 セイタカシギの巣と卵

の地色に不規則な褐色の斑点があり鈍端部に近いほど斑点が多く色合いは砂礫と保護色になっている、大きさは長径 40mm×短径 30mm ほどで、体の大きさに比べて大きめの卵である。（例えば樹上で営巣するハシブトガラスの卵は長径 43mm×短径 30mm でほぼセイタカシギと同じ

なのに体長は、セイタカシギが体長 37cm に対しハシブトガラスは体長 57cm と大きい)

7. 抱卵時の行動

観察時間帯が毎回午前中だけなので十分な観察は出来ていないが、調査範囲内での行動をまとめると、抱卵(図4)は、雌雄が頻りに交代しながら行う。抱卵時間は短い時は3分くらい最長で52分であった。抱卵の交代は、各つがい共に鳴き声などの合図もなく、勝手に離巢し餌場へ飛ぶことがほとんどであった。樹上で抱卵するサンコウチョウなどのように雌雄が合図しながら交互に連続して抱卵する習性はない。そのため頻りに巣を空けたり、長時間(40分くらい)空けることもあった。

巣が空いていると何処からか雌雄いずれかがやってきて抱卵を開始する。必ずしも雌雄が交互に抱卵するわけでもなく同一個体が続いて巣に入るがあった。抱卵開始時には、いつも丁寧に転卵し卵の温度を均一化している。抱卵初期段階は雄の抱卵時間の方が長く積極的であり後期になるにしたがって雌雄ほぼ同じ時間となっていた。B家族の雌は、次列風切に白いフリンジをもつ若鳥で、どうも抱卵に不慣れなのか、すぐ巣を離れる。雄はその雌をかぼうかのように、雌の抱卵時間の3倍くらい長かった。また、この雄は、危険を感じるといち早く警戒音声を発しながら雌を保護する。雄のそんなしぐさは、野鳥たちのほほえましい愛情なのだろう。セイタカシギの外敵に対する警戒心は抱卵



図4 抱卵中の雄親

後期に近づくほど強くなり、人が抱卵場所に近づくと頭上を旋回しながら鋭い警戒発声を発し、急降下攻撃を繰り返す。外敵が去ると営巣場所

から30mほど離れた場所へ降りてから周囲を確認した後に抱卵を再開する。2組のつがいは、日ごろは、それぞれ干渉もなく抱卵していたが、抱卵して間もない6月12日と6月16日に2組のつがい4羽が抱卵を中断して約15分間飛びながらバトル(図5)を展開していた、この特異な行動が相互のコミュニケーションなのか縄張り争いなのか繁殖行動に関係あるのか不明である。

8. 巣

セイタカシギの巣は、樹上で営巣する鳥たちの巣と比べてはるかに簡単なもので、地上のくぼみに小石や貝殻を集め、その上に枯れたヨシの茎や葉を敷き詰めた上、卵が中心に入るようにくぼみを設けたものである。巣の大きさは、外径17cm 内径11cm 深さ3cm程であった。

9. 孵化

2008年6月30日の朝いつもと様子が違う“ケツケツケ”と、かん高い鳴き声が遠くから聞こえてくる、近づいてみると4羽の親鳥が落着きのない動作で池の周りを素早く歩いていた。よく見ると足元に雛たちのしきりに餌をついばむ姿があった。A家族は、営巣場所から15mほど東側寄りの池で雌親に連れ立って4羽の雛を、B家族は、営巣場所のすぐ前の池で雄親と4羽の雛を確認した、孵化率100%で、しかも同日2組8羽の孵化は、偶然だろうか?抱卵を確認してから20日後の孵化であった。セイタカシギの雛は、早成性で離巢性なので、孵化時すでに全身綿羽に覆われており、すぐに自分で歩行、採餌行動をしていた。また、一旦巣を離れると再び巣へ戻ることはなか



図5 抱卵を中断して飛び交うセイタカシギ

左からB家族の雌(若鳥) A家族の雌

A家族の雄 B家族の雄

った。孵化後2~3日は、歩行中バランスを崩し

て、しりもちをつく雛もあったが健脚である。孵化したばかりの雛の採餌は、親のしぐさと同じように、左右にくびを振りながら水中に棲む甲虫類やアカムシなどを上手に捕らえる、これは、本能的な動作だろうが驚きだった。採餌に疲れた雛は、池縁に上がり、図6のように親に寄り添い胸の中へ入って休息する。雛に対する監視は、雌雄のいずれか1羽が分担し、他の1羽は採餌や休息にあたる。交代時間は、まちまちだが30分～1時間くらいであった。この時期は、警戒心が極度に強くなり、抱卵中には気にしていなかったシロチドリやコチドリが雛に近づくと執拗に干渉し追い払う。しかし、コアジサシが近づいても無関心であったことは興味深い。セイタカシギと餌が共通するシロチドリやコチドリは、テリトリーから追い出すが、餌が異なるコアジサシは、干渉しないとも考えられる。2組のつがいは、それぞれ家族単



図6 セイタカシギの親子(雛は2日齢)

位で雛を連れて、別々の離れた池に分かれて生活しており干渉することはなかった。

10. 雛の成長

セイタカシギは、シロチドリたちと同じように孵化した直後から自分自身で歩行し採餌するので、親は、雛に餌を与えることなく、もっぱら雛に対する外敵からの警戒監視に専念する。雛たちは、池の浅場で、せわしく採餌を繰り返し、疲れると池から上がって脚をたたんで休息したり、近くに親がいれば親の胸の中へ入り込む。ただ、親の胸に入る、ほほえましい動作は、なぜか孵化後5日までで、それ以降は見られなくなった。カルガモなどは、雛が一群となって親と共に行動している場面をよく見かけるが、セイタカシギの雛は、それぞれ勝手気ままに動き廻り、まとまって行動

する習性に乏しい。親が呼んでも無関心で横柄な所があるのでその分、親の監視が大変のように見えた。各家族の生活する池は、ほぼ一定しており転々とするとはなく行動範囲は半径50m程度であった。7月9日観察中にハヤブサが襲来、この埋立地に繁殖するコアジサシやケリが、けたたましく騒ぐ中、セイタカシギは、ケリと共に果敢にハヤブサを攻撃し追い払いに成功した。地上の天敵は少ないが、空からの襲撃は時々ある、ケリ、コアジサシなどとの集団繁殖が天敵から守る相互の強力な防衛手段となっている。雛の成長は、孵化後2週間までは脚が長くなり、嘴が大きくなるが見かけ上それほど大きく成長しない、羽衣も綿羽のままであった。その後、急激に大きくなり3週間目には、風切羽、雨覆羽、背羽などがウロコ状に換羽(図7)し、体も大きくなって10mくらい飛翔することができるようになる。7月31日は、雛の200mを越す飛翔を確認、体長は、親よりやや小ぶりくらいまでに成長していた。この日を最後にA家族、B家族親子合わせて12羽はこの地を離れて別の生息地へ旅立ちした、孵化後33日である。その後8月下旬A家族らしい親子6羽が、松阪市で観察されたとの情報があるが定かでない。

注：74日齢は、推定固体

おわりに

セイタカシギは、国内各地へ渡来しているのが各地で繁殖していると思われるが、この地域で繁殖が観察出来たことは幸運であった。生まれた全ての雛8羽が、欠ける事無く無事に巣立だった事がなによりである。観察場所への入場に制約があり、十分なデータの収集が出来ていないので定量的な報告に乏しく大雑把な報告となった。今後も継続して繁殖してくれるなら、より定量的な調査をして補足していきたい。

今回は、人工的に埋め立てた荒地に自然が蘇った典型的な例である。自然環境の保全のあり方についてセイタカシギが示してくれた、今後とも自然との共生を大事にしていきたいものである。

ご指導頂いた名張市：武田恵世氏、観察に配慮頂いた四日市港管理組合：坂上正美氏および観察に参加いただいた皆さんに感謝申し上げます。

参考文献

二

動物学雑誌 2003 38(5) 河北南大港におけるセイタカシギの繁殖習性観察 訳 福井和二
都市公園 No.179 2007年12月号 葛西臨海公園
鳥類園における自然回復への取り組み 中村忠昌伸



図7 日齢で見る雛の成長過程

編集部のコメント

繁殖場所を示す内容や雛の写真は、一般的には公開しないことが多いです。今回は、観察地が立ち入り禁止の場所で一般の人は入れないこと、この地方でのセイタカシギの繁殖記録が少なく貴重な記録であることから安藤さんに執筆してもらいました。

野鳥記録(2008年6月～08年10月に報告のあったもの)

※表中の「報告者」は「初認者」ではない場合もあります。

種名	個体数	記録日	場所(通称など)	記録報告者	写真	備考
カナダカモメ	1	2008/2/11	津市白塚町白塚海岸	安達 直孝	○	1
カナダカモメ	1	2008/4/13	鈴鹿市南若松町	安達 直孝	○	2
ワシカモメ	1	2008/4/26	鈴鹿市鼓ヶ浦海岸	安達 直孝	○	
セイタカシギ	12	2008/6/6	四日市市	安藤 宣朗	○	3
アオツラカツオドリ	1	2008/6/28	木曾岬町木曾岬干拓地内	近藤 義孝	○	4
カラシラサギ	1	2008/7/7	四日市市楠町 鈴鹿川派川河口	横山 真一	○	
ウミネコ	1	2008/7/19	津市雲出川河口	田中 洋子	○	5
ベニアジサシ	1	2008/8/3	鈴鹿川河口	安達 直孝	○	
ピロードキンクロ	1	2008/8/3	四日市市楠町海岸	田中 洋子	○	
キョウジョシギフラッグ付	1	2008/8/9	松阪市松名瀬海岸	田中 洋子	○	6
アオバト	3	2008/8/13	津市河芸町東千里 護岸堤防	安達 直孝	○	
アオバト	3	2008/8/13	津市河芸町東千里 湿地	安達 直孝	○	
アカアシシギ	1	2008/8/13	同上	安達 直孝	○	
セイタカシギ	6	2008/8/21	松阪市狛師町の池	中村 洋子		7
アカアシシギ	1	2008/8/23	松阪市高洲町の池	中西 章	○	
アカエリヒレアシシギ	3	2008/8/23	同上	中西 章	○	
サンショウクイ	2	2008/8/31	三重郡菟野町千草(三重県民の森)	矢田 栄史		
シマアジ	2	2008/9/13	伊勢市東豊浜町の池	田中 洋子	○	
ヘラシギ	1	2008/9/14	雲出川河口	安達 直孝	○	
コモンシギ	1	2008/9/15	志摩市甲賀	安達 直孝	○	
アマツバメ	4	2008/9/17	津市安濃「経ヶ峰」	川口 久美		
オオセグロカモメ	100	2008/10/5	川越町朝明川河口(高松干潟)	安達 直孝	○	8
コシアカツバメ	40	2008/10/10	度会町葛原	小坂 里香		
アトリ	2	2008/10/17	玉城町の山山頂付近	小坂 里香	○	

- 備考1 4/13に同所で終認。前号掲載の同所で4/6記録の個体と同一と思われる。
- 備考2 この日から4/26日まで(13,19,20,26)千代崎から磯山の間で観察できた。
- 備考3 雄2雌2幼2。2番が同地で繁殖に成功した。
- 備考4 木曾岬干拓地チュウヒ調査中に観察。観察者は前田崇氏(名古屋鳥類調査会)。
- 備考5 当年生まれの幼鳥を今期初認。
- 備考6 2007/03/24標識、放鳥地はタスマニア州のキング島と判明(山階鳥研へ報告し回答あり)
- 備考7 成鳥2幼鳥4。四日市で繁殖した家族か。
- 備考8 幼鳥が大多数。この時期オオセグロカモメの群れは珍しい。

58号野鳥記録の訂正(備考の追加)

種名	個体数	記録日	場所(通称など)	記録報告者	写真	備考
ユリカモメ	1	2008/3/21	津市町屋海岸	石原 宏	○	1
セイタカシギ	2	2008/5/17	松阪市狛師町 漁師漁港裏の池	中西 章	○	2

- 備考の追加1 標識(黄色リングにGXの文字)あり。2001/12/16兵庫県西宮市の武庫川で標識の個体と判明。その後も武庫川を中心に大阪湾岸北部で記録があり、2007/1に西宮市の海岸で観察されて以来の確認。大阪市立自然史博物館の和田岳氏に問い合わせ回答。
- 備考の追加2 営巣、2卵を抱卵。27日まで抱卵を続けたが雨による増水のため水没、営巣放棄。

観察記録募集! 支部のHP http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/index.htm から簡単に投稿できます。支部報に掲載できない記録もデータとして保存しています。ぜひご協力ください。

会員のページ

「野鳥の会」と俳句づくり

四日市市 増田 實

退職後、平成 17 年から 2 年間、四日市市民大学・熟年コースに籍を置き、俳画の手ほどきを受けた。「俳画」は、簡略化した画材に俳句を添えたもの（賛句）であり、『春の海 終日のたり のたり哉』の作者として知られる与謝蕪村を開祖とするものだそうです。

俳画の練習を始めた頃は、画材の方は手本どおりになぞることは勿論のこと、賛句についても手本に記されている句を丸写しでしたが、せめて賛句は自分で作った句を添えようとするのは自然の流れ。市民大学を修了する頃には、当地の『煌星俳句会』へ仲間入りをさせてもらいました。

俳句づくりには、色々な流派、手法があるそうですが、伝統的には『花鳥諷詠』を基本とするものだそうです。

ところが、『花鳥諷詠』と言っても、日頃、身の回りで目に付く『花』や『鳥』についてさへ、名前すらも殆んど分からないところで、『花鳥諷詠』どころではありません。

『花』については家内を先生役として、少しずつ覚えてきましたが、『鳥』についてはサッパリ。そこで、つい最近、「野鳥の会」へ仲間入りをさ

せていただき、『鳥』に馴染むように心掛けています。

ここでは、『花鳥諷詠一鳥』に係わる自作句の中から、数句を挙げてみることにしましょう。句中、(入選)としたのは、『煌星俳句会』の主宰より、入選の評価をいただいたものです。

「野鳥の会」へ入会する前の句

- ・ 冬ぬくし 小枝に遊ぶ 日白かな
- ・ 伊勢の海 鶴にも好みの 礁(いくり)あり(入選)
- ・ 寄り添って 雨にうたれる 燕かな
- ・ 老鶯の 間近に鳴ける 登山道
- ・ 木枯らしや 荒ぶ水面に 鴨二つ
- ・ 聞せまる 梢に一つ 冬の鵞

「野鳥の会」へ入会して後の句

- ・ 頬白や 吾と間をとる 二、三間(入選)
- ・ 雉子(きぎす) 啼く 代官橋の 袂かな
- ・ 青さぎや 沈思黙考 沢に佇つ
- ・ 見はるかす 畑に雉子の 地啼き哉(入選)
- ・ 鳥帰る 波状飛行の 千羽とや
- ・ 夏めきて 小啄木鳥(にげら) 見せたり 幹渡り
- ・ 椋鳥(むく)の群れ 去りて静寂や 朝曇り(入選)

注(鵞 もず)



編集部よりお詫び

しろちどりの同封されていない封筒が届いたと連絡を頂きました。

申し訳ありませんでした。謹んでお詫び申し上げます。

問題がありましたら、しろちどりの編集担当まで連絡をお願いします。

日本野鳥の会 三重県支部 20年度(2008年度)予算書

20年度 自2008年4月1日 至2009年3月31日

単位:円

科目	19年度実績 一般・特別合算	20年度予算 一般・特別合算	比較増減	備考	20年度予算会計区分	
					一般会計	特別会計
<事業高>						
支部会費	721,650	720,000	-1,650	2000円×360人	720,000	0
受託収入	3,410,400	3,250,000	-160,400	動植物減他前年並み	0	3,250,000
事業部売上高	138,060	80,000	-58,060	販売部縮小の方向へ		80,000
受取補助金	0	0	0		0	0
受取寄付金	190,000	20,000	-170,000	寄附金例年分計上	20,000	0
事業高合計	4,460,110	4,070,000	-390,110		740,000	3,330,000
<売上原価>						
期首商品棚卸高	118,893	96,505	-22,388		0	96,505
当期商品仕入高	94,895	0	-94,895	販売部縮小の方向へ	0	0
期末商品棚卸高	96,505	28,505	-68,000		0	28,505
売上原価	117,283	68,000	-49,283		0	68,000
事業利益	4,342,827	4,002,000	-340,827		740,000	3,262,000
<事業管理費>						
支払調査費	1,637,767	1,547,500	-90,267	カワウ調査報酬減	0	1,547,500
報告費	243,000	150,000	-93,000	動植物減	0	150,000
雑損費	349,000	240,000	-109,000	カワウ調査雑損減	0	240,000
通信費	478,894	469,500	-9,394		280,144	189,356
印刷費	354,609	397,500	42,891	しろちどり年4冊発行増	386,587	10,913
消耗品費	177,635	180,000	2,365		126,203	53,797
減価償却費	158,903	158,903	0		104,820	54,083
会場費	5,180	5,000	-180		3,373	1,627
会議費	18,440	26,000	7,560	チュウヒサミット増	17,054	8,946
旅費交通費	348,480	378,500	30,020	理事会・青川調査旅費増	289,325	89,175
支払手数料	105,000	72,500	-32,500	申告手数料減	29,803	42,697
講師謝礼金	10,000	30,000	20,000	野鳥講座増	30,000	0
図書費	25,620	0	-25,620	購入図書減	0	0
寄付金	52,680	0	-52,680	小学校寄附減	0	0
諸会費	28,000	28,000	0		28,000	0
雑費	13,505	15,600	2,095		6,154	9,446
事務費	118,096	115,000	-3,096		0	115,000
保険費	43,800	43,497	-303		0	43,497
一般管理費合計	4,168,609	3,857,500	-311,109		1,301,463	2,556,037
事業総利益	174,218	144,500	-29,718		-561,463	705,963
<事業外収益>						
受取利息	25,777	25,000	-777		25,000	0
雑収入	30,000	20,000	-10,000		20,000	0
事業外収益合計	55,777	45,000	-10,777		45,000	0
当期純利益	229,995	189,500	-40,495		-516,463	705,963
<税金等>						
法人税等	919,100	189,500	-729,600	前年法人税	0	189,500
税引後利益	-689,105	0	689,105		-516,463	516,463

* 一般会計516,463円の赤字、特別会計516,463円の黒字、差し引き利益0となる。

事務局だより

支部活動の記録（2008年7月～10月）

- 7/12 支部報「しろちどり第58号」発行
- 7/ 県委託カワウねぐら・コロニー調査
- 7/23 警察・行政・支部による密猟合同パトロール（南勢地区）
- 8/3 2008年度第2回理事会
- 8/4 平成20年度鳥獣保護区等の設定について意見書を提出（津・3通）
- 8/8 伊勢警察に協力（違法飼養鳥の鑑定作業）
- 8/13 カワウ被害対策について鈴鹿市へ
- 8/16 木曾岬干拓地立ち入り調査（保護部）
- 9/11 平成20年度鳥獣保護区等の設定について意見書を提出（松阪・4通）
- 10/11～13 風力発電関連調査講習会

● 今後の予定

- 11/2～3 中部ブロック会議
- 11/9 第3回理事会



理事会報告

第2回（2008年8月3日 13:30～16:30）

津市雲出市民センター 出席者 9名

【協議事項】

○公益法人対策

財団は公益法人になろうとの方針。しかし、公益財団法人になるためには、50パーセントは公益事業にしなければならないが、財団が公益法人になった場合、「支部」という名は使えない。今後も日本野鳥の会の名前が使えるかどうかかわからない。

今の段階では結論は出ないが、中部ブロック会議などで他支部の様子も聞きながら、相談していく。情勢について支部報「しろちどり」にも、載せていく。

○委託調査規約の変更案

事業によって収支のバランスが異なる。利益がすぎる事業と、支出を抑えないと赤字になる事業とがある。委託調査規約の改正案を提案。財源のランク度・難易度で調査費を変える。ランク難易度の決定は事務局・会計で行う。その他については現行に準ずる。（提案内容）規約2の2）と3）を改正する。

○旅費規程の変更案

変更案提案

理事会・部長会への出席について距離に応じて、支払う。

今後の県外旅費などについてブロック会議など多人数の出席の場合については別段の規程が必要。

○宮川の洪水対策

度会橋上流左岸の湾曲部河岸林を伐採する。畑地を用地買収済み、伊勢市が利用計画を作成。南勢地区で現地を見学して、伊勢市の案も聞き対応する。

○野鳥講座追加案

講師候補を検討（理事会後、下記に決定）

前田 崇氏（名古屋市野鳥観察館） 11月29日（土） 野鳥撮影教室

三重県総合文化センター 生涯教育棟中会議室

上馬康生氏（石川県白山自然保護センター） 2月1日（日）イヌワシと白山の自然

三重県総合文化センター 男女共同参画棟特別会議室

○探鳥会名簿

次回提案 事務局で検討することになっていたが、未定

○紀南地区新設問題

紀南には11名の会員 地区を作るのなら、地区長を決めてほしい。

○H.P.について

プロにレイアウトなどを外注する。（金額がわかり次第、理事に報告する）

会員用に、しろちどりのPDFファイルをHPに掲載する。探鳥会速報については議論したが、結論に至らなかった。

	取扱商品
	フィールドスコープ 双眼鏡(小型・大型) 天体望遠鏡 カメラ(新品・中古) その他光学製品各種
	取扱メーカー
	KOWA・NIKON・FUJINON MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他
中部地区最大の光学製品専門店	
TELESCOPE CENTER EYEBELL	
テレスコープセンターアイベル（株式会社アイベル）	
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119	
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00	
ホームページ http://www.eyebell.com メールアドレス eyebell@diamond.broba.cc	

探鳥会報告 (08年6月~10月)

● 美杉探鳥会

2008年6月7日(土) 16:30~20:00
津市美杉町川上、平倉、三重大学演習林
坂元伸治・川口久美

参加者 24名 (会員 14名)

アオサギ、コノハズク、アオバズク、ヨタカ、アカショウビン、アオゲラ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、カワガラス、ミソサザイ、ウグイス、オオルリ、カケス、ハシボソガラス。計 16種

梅雨入りの中昨日、本日、と天気は良くなり、それに合わすように目的のコノハズク、ヨタカ、アオバズクの声が聞けました。他にもアカショウビン、ミソサザイ、カワガラス、オオルリ等、16種の鳥を確認できました。イノシシの姿、ムササビの飛翔、シカの声も聞けました。全員たいへんよろこんでいました。又、3年前のNHKの蓬莱山の生放送と同じ日でした。

● 雲出川右岸~河川公園 (紀勢線JR下) 探鳥会

2008年6月22日(日)
松阪市舞出町~河川内の公園
福井 勝・小野新子
雨のため中止。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2008年6月22日(日) 9:00~12:00
弥富市
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝・米倉 静

参加者 15名

カワウ (150)、ゴイサギ (1)、アマサギ (2)、ダイサギ (10)、コサギ (4)、アオサギ (5)、カルガモ (20)、コガモ (2)、ホシハジロ (1)、ミサゴ (2)、チュウヒ (4)、キジ (15)、コチドリ (1)、ケリ (15)、コアジサシ (20)、キジバト (30)、アマツバメ (1)、ヒバリ (20)、ツバメ (20)、モズ (1)、オオヨシキリ (5)、セッカ (20)、ホオジロ (2)、カワラヒワ (20)、スズメ (30)、ムクドリ (30)、ハシボソガラス (60)、ハシブトガラス (30)、ドバト (50)。計 29種

前日開催されたチュウヒサミット 2008 の現地視察もかねて開催された。チュウヒが餌を運んでいた。また、干拓地北側で繁殖するコアジサシが魚を口にくわえて飛んでいた。上空を飛ぶアマツバメも観察することができた。

● ねぐら入りを見る探鳥会

2008年7月26日(土) 18:00~19:30
伊勢市東豊浜町土路 外城田川河口
西村 泉・中西 章

参加者 10名 (会員 5名)

カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ミサゴ、イソシギ、ウミネコ、ツバメ、ハクセキレイ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト。計 17種

昨年と同時期の探鳥会だったが、お目当てのツバメはあまり飛ばなかった。おもに、アオサギやダイサギのねぐら入りとこれから活動するゴイサギを見ることができた。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2008年7月27日(日) 9:00~12:00
弥富市
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝・米倉 静

参加者 13名

カワウ (80)、ゴイサギ (3)、ダイサギ (1)、チュウサギ (2)、コサギ (3)、アオサギ (7)、カルガモ (20)、ホシハジロ (1)、ミサゴ (4)、チョウゲンボウ (1)、コチドリ (12)、ケリ (1)、クサシギ (4)、イソシギ (1)、コアジサシ (12)、キジバト (7)、カワセミ (1)、ヒバリ (10)、ツバメ (15)、ハクセキレイ (5)、セッカ (15)、ホオジロ (1)、カワラヒワ (25)、スズメ (50)、ムクドリ (6)、ハシボソガラス (10)、ハシブトガラス (3)、ドバト (3)。計 28種

この時期には珍しいチョウゲンボウが飛んでくれた。うだるような暑さの中での探鳥会だったが、参加者が熱心で、早く終わるつもりだったがいつもと同じになってしまった。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2008年8月24日(日)9:00~12:00

弥富市

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝・米倉 静

参加者 13名

カイツブリ(5)、カワウ(100)。ゴイサギ(15)、アマサギ(100)、ダイサギ(10)、チュウサギ(20)、コサギ(10)、アオサギ(6)、マガモ(1)、カルガモ(30)、コガモ(2)、ホシハジロ(1)、ミサゴ(7)、オオタカ(1)、チュウヒ(6)、ハヤブサ(1)、チョウゲンボウ(1)、キジ(5)、ケリ(10)、クサシギ(2)、イソシギ(7)、キジバト(20)、カワセミ(2)、ヒバリ(5)、ショウドウトツバメ(500)、ツバメ(20)、ハクセキレイ(2)、ヒヨドリ(5)、セッカ(15)、シジュウカラ(1)、カワラヒワ(5)、スズメ(80)、ムクドリ(20)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(10)、ドバト(15)。計36種

探鳥会の開始時から、オオタカが上空を飛んでくれた。ハヤブサ、チョウゲンボウと次々に現れ、チュウヒは幼鳥2羽、雄1羽、雌3羽の計6羽を確認、ミサゴも7羽を観察できた。田圃にはアマサギ、チュウサギなどがおり、水路にはゴイサギやダイサギ、サギ類もたくさん観察できた。

● 高松海岸探鳥会

2008年9月14日(日)10:00~12:00

三重郡川越町高松

市川雄二・高 和義

参加者 8名(会員 7名)

カイツブリ(1)、カワウ(40)、ダイサギ(2)、コサギ(5)、アオサギ(2)、カルガモ(40)、イソシギ(3)、オオセグロカモメ(2)、ウミネコ(152)、キジバト(1)、ハクセキレイ(2)、スズメ(3)、ムクドリ(3)、ハシボソガラス(40)。計14種

先日北勢地方に大雨がふり朝明川上流も道路が決壊するなどの被害があった。その影響もあって、高松海岸は砂地の地形が変化し、段差もできていた。また、貝採りのために100名ほどの人々が訪れていた。ハシボソガラス、サギ類、ウミネコの群れがみられた。シギのなかまは、イソシギが確認できた。14種類の鳥類がみられた。

● 海蔵川探鳥会

2008年9月16日(火)9:40~12:00

四日市市西坂部町海蔵川沿い

尾畑玲子・高 和義

参加者 12名(会員 8名)

カイツブリ(6)、カワウ(2)、アマサギ(1)、チュウサギ(7)、コサギ(2)、アオサギ(2)、カルガモ(18)、ヒクイナ(3)、バン(6)、キジバト(12)、カワセミ(1)、ツバメ(5)、キセキレイ(1)、セグロセキレイ(2)、ヒヨドリ(5)、モズ(2)、エナガ(7)、シジュウカラ(1)、ホオジロ(2)、スズメ(3)、コムクドリ(2)、ムクドリ(60+)、ハシボソガラス(2)、ハシブトガラス(1)、ドバト(1)。計25種

昨夜の雨もどうやら上がり、落ちついた探鳥会となった。歩きはじめて最初の出物はムクドリの群れ。その中にコムクドリがいた。ムクドリより1まわり小ぶりでいろ白なのが愛らしい。ここでは珍しいお客様に満足。往路をほぼ終わり、復路にかかったとき、川の洲の草むらに黒い糸玉がちょこちょこ2つ。バンかなと思っていたら、近くでヒクイナを発見。海蔵川でヒクイナが繁殖するんだ!と皆で感動した。2つも珍しい鳥に会えて全員大満足だった。

● 多度山探鳥会

2008年9月21日(日)

桑名市 多度山

近藤義孝

雨天のため中止。

● ハリオアマツバメを見る

2008年9月21日(日)10:00~12:00

伊賀市法花

田中豊成・小林達也

参加者 6名(会員 3名)

カワウ(2)、ダイサギ(1)、トビ(3)、オオタカ(1)、サシバ(2)、キジバト(4)、アマツバメ(5)、アリスイ(1)、モズ(5)、ホオジロ(1)、スズメ(10+)、ムクドリ(4)、ハシボソガラス(4)、ドバト(4)。計14種

ハリオアマツバメの観察には少し遅いと思われた。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2008年9月28日(日)9:00~12:00

弥富市

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝・米倉 静

参加者 19名

カイツブリ(8)、カワウ(60)、ゴイサギ(3)、ダイサギ(7)、チュウサギ(3)、コサギ(6)、アオサギ(6)、マガモ(1)、カルガモ(25)、コガモ(30)、ヒドリガモ(2)、ミサゴ(8)、オオタカ(1)、サシバ(2)、チュウヒ(2)、キジ(1)、コチドリ(2)、シロチドリ(2)、ケリ(1)、アオアシサギ(1)、クサシギ(4)、イソシギ(2)、キジバト(14)、カワセミ(1)、ヒバリ(6)、ショウドウツバメ(100)、ハクセキレイ(8)、ヒヨドリ(100)、モズ(8)、ノビタキ(2)、セッカ(1)、エゾビタキ(2)、ホオジロ(2)、カワラヒワ(10)、スズメ(200)、ムクドリ(30)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(10)、トビ(2)。計 39種

探鳥会の集合場所にコサメビタキ、鍋田干拓地の鉄柱の上にノビタキ、水路にはカワセミ、木曾岬干拓地に行けばチュウヒ、振り返って電柱の上を見るとオオタカの若鳥、いつもいろいろでくれます。

● 伊勢タカ渡り探鳥会

2008年9月28日(日)7:30~10:30

いせやすらぎ公園

吉居 清・高木和夫・竹林 康

参加者 21名(会員 11名)

アオサギ(1)、サシバ、キジバト、アオゲラ(1)、ツバメ、ハクセキレイ(1)、ヒヨドリ、モズ(1)、イソヒヨドリ(♀1)、エゾビタキ(1)、コサメビタキ(1)、エナガ(5)、ヤマガラ(3)、シジュウカラ(1)、ホオジロ(1)、ハシボソガラス(>10)、ハシブトガラス(>10)。計 17種

前日のタカ渡り全国ネットワークの情報や当日の天候からの予想どおり、多くのタカが飛来した。探鳥会の時間帯にはサシバ 193羽だったかが15:00までの合計はサシバ 646羽、ピークの時間帯は11:20~11:59の165羽。当日の伊良湖岬ではタカ類の合計が 2887羽なので、残りの2241はいつ、どこを通ったのか?検証が必要である。

● 伊勢タカ渡り探鳥会

2008年9月29日(月)7:00~9:00

いせやすらぎ公園

吉居 清・高木和夫・竹林 康

曇後雨のため9:00に中止。しかしサシバ5羽が近くを移動した。

● 伊勢タカ渡り探鳥会

2008年9月30日(火)

いせやすらぎ公園

吉居 清・高木和夫・竹林 康

朝から雨のため中止。

● 伊勢タカ渡り探鳥会

2008年10月1日(水)

いせやすらぎ公園

吉居 清・高木和夫・竹林 康

朝から雨のため、探鳥会は中止。ただし、調査は雨が上がった午後に実施した。

● 伊勢タカ渡り探鳥会

2008年10月2日(木)7:30~10:30

いせやすらぎ公園

吉居 清・高木和夫・竹林 康

参加者 9名(会員 8名)

サシバ(82)、キジバト、アリスイ、アオゲラ、アカゲラ、ツバメ、ヒヨドリ(渡り>30)、モズ、エゾビタキ、コサメビタキ、ヤマガラ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計 14種

探鳥会の時間帯にサシバ73羽をカウントした。これ以前にねぐら発ちを含めサシバ9羽をカウントしている。タカ以外にアリスイ、エゾビタキ、コサメビタキなどの渡り鳥が出現した。また9:15には30羽以上のヒヨドリが渡った。

● 伊勢タカ渡り探鳥会

2008年10月3日(金)7:30~10:30

いせやすらぎ公園

吉居 清・高木和夫・竹林 康

参加者 9名(会員 9名)

ミサゴ(1)、ハチクマ(7)、ノスリ(4)、サシバ(1506)、キジバト、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ(>200)、モズ、イソヒヨドリ、コサメビタキ、ヤマガラ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジ

ユケイ。計 16 種

5:56~6:03 の間にねぐら発ち 179。その後、8:00 まで全く飛ばなかったが、8:03 から続々と飛来した。探鳥会は一旦 11:00 で終了としたが、8:00~11:00 の間に 1171 羽をカウントした。調査は 14:00 まで行い、1518 羽をカウントした。

● 伊勢タカ渡り探鳥会

2008 年 10 月 4 日 (土) 7:30~10:30

いせやすらぎ公園

吉居 清・高木和夫・竹林 康

参加者 7 名 (会員 5 名)

サシバ(116)、キジバト、アオゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、ホオジロ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。計 13 種

6:00 に 6 羽のねぐら発ちがあった。昨日、大量の飛来があったため、探鳥会の時間中に飛来したのはサシバ 110 羽だった。

● タカ渡り探鳥会

2008 年 10 月 4 日 (土) 8:00~12:00

松阪市飯南町 相津峠

西村四郎・中村洋子

参加者 10 名 (会員 10 名)

カワウ、ミサゴ、ハチクマ、トビ、ハイタカ、ノスリ、サシバ、クマタカ、キジバト、ハリオアマツバメ、アマツバメ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、コサメビタキ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カケス、ハシボソガラス。計 23 種

9時半~11時頃まで間断なくサシバ、ハチクマ、ノスリ、ミサゴ、ハイタカが約 300 羽渡って行きました。地付きと思われるクマタカやトビなど猛禽類がたくさん観察できました。小鳥類の渡りはツバメ、アマツバメ、ハリオアマツバメ、コサメビタキが観察できました。驚いたのはカワウ 1 羽が峠の上でタカと同じように上昇気流に乗ってグルグル旋回しました。タカの渡りには他の鳥もいろいろ刺激を受けるみたいです。

野鳥講座のご案内

野鳥講座 2

2008 年 11 月 29 日 (土) 13:30~16:00

「野鳥デジタル写真教室」

講師 名古屋鳥類調査会 前田 崇氏

場所 三重県総合文化センター・中会議室

自家用車駐車可

※講師の前田崇氏は名古屋市在住で猛禽類など多くの野鳥写真を撮り続けている方です。また、名古屋市野鳥観察館のガイドも努めておられます。今回は撮影機材の使用方法など野鳥撮影のノウハウを、教えていただきます。ふるってご参加ください。

野鳥講座 3

2009 年 2 月 1 日 (日) 13:00~15:30

「イヌワシと白山の自然」 イヌワシの生態とイヌワシの生息する白山の自然についての講演

講師 石川県白山自然保護センター 上馬康生氏

場所 三重県総合文化センター 男女共同参画棟・特別会議室

※講師の上馬康生氏は環境省編集鳥類保護連盟発行の「猛禽類保護の進め方」でイヌワシを担当されました。また、写真集「白山の四季」や、登山ガイドブック「山と高原地図 白山」などを執筆されています。

しろちどり原稿募集

編集部では原稿を募集しています。鳥に関わるどのようなことでも結構です。

次は60号ということでカラー印刷を考えています。自慢の野鳥写真を募集します。投稿をお願いします。締め切りは1月15日です。

原稿は、編集担当 近藤義孝まで E-mail: fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

住所 〒511-0123 桑名市多度町北猪飼521

北勢地区 地区会情報

北勢地区では毎月第二土曜日に、日本野鳥の会三重県支部事務所（四日市市元新町4）で地区会を開催しています。今後の予定を、お知らせします。変更になることもあるので、初めての方は問い合わせをお願いします。

12月13日13時30分 1月10日10時 2月14日10時 3月14日10時

また、いなべ総合学園高校と共催で下記の行事もあります。

11月9日（日）9:00～11:00 12月13日（土）9:00～11:00

「 - いなべ学びのプラザ - バードウォッチング入門」

開催場所 三重県立いなべ総合学園高等学校

いなべ市員弁町御園632 Tel.0594-74-2006(代表)

内容は 教室での野鳥観察の基本的な講義と、員弁川と田圃での野鳥観察です。

北勢地区会、上記行事の問い合わせは、

近藤義孝 E-mail: fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp Tel.0594-48-3260

編集後記

サブプライムローンから端を発した金融恐慌は、日本にも株安・円高など大きな影響を与えています。また、世界の食糧供給も切迫した状況になりそうです。石油価格も一時的に元に戻りつつあるようですが、枯渇するのは時間の問題です。石油依存から脱却するために、優れた技術を持っていながら普及していない太陽光発電などの技術を普及させたり、食糧自給率を高めるなどの政策を実施するチャンスです。コンクリートの公共事業ではなく、里山の復活など、人にも野鳥にも優しい政策を実施してほしいと思います。

Y. K.

しろちどり 59号

2008年11月3日発行

題 字: 濱田 稔

表紙絵: 北川和則

カット: 平井正志

編 集: 近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼521

発行所: 日本野鳥の会三重県支部

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印 刷: 東海出版(有)

510-0885 四日市市日永4丁目5-48